

決算説明資料

2026年3月期

Code:6912

2026年5月



KIKUSUI HOLDINGS
菊水ホールディングス株式会社

当社グループの紹介

P 3～

2026年3月期 連結業績概要

P13～

2027年3月期 連結業績予想

P24～

当社グループの紹介

社名 (銘柄コード)	菊水ホールディングス株式会社 (6912)	
設 立	1951年 (昭和26年) 8月8日	
資 本 金	22億125万円 (3月決算)	
発 行 済 株 式 数	8,800,000株 (1単元株数100株)	
事 業 内 容	グループ会社の経営管理 等	
大 株 主 (自己株式は含まず)	菊水取引先持株会 11.7% 株式会社ケーティーエム 10.9% 株式会社みずほ銀行 4.3% 小林寛子 4.2% 菊水従業員持株会 4.1% 日本生命保険相互会社 3.6% アジア電子工業株式会社 3.5% ケル株式会社 2.6% 株式会社三菱UFJ銀行 2.6% 橋本幸雄 2.3%	
代 表 者	代表取締役社長 小林一夫	
従 業 員 数 (当社グループ)	345名 (2026年3月末現在) 研究開発 88名 [+4] 生産・購買 97名 [+3] 営業 124名 [+5] 管理 36名 [-1]	[] は前年比増減



●は海外代理店

菊水ホールディングス株式会社

本社 (神奈川県横浜市都筑区)

関連子会社

菊水電子工業株式会社 (神奈川県横浜市都筑区)
2022年4月設立 連結 出資比率: 100%
営業所: 横浜、仙台、さいたま、名古屋、吹田、福岡 (出張所)

菊水エムズ株式会社 (山梨県南都留郡富士河口湖町)
2022年4月設立 連結 出資比率: 100%

菊水貿易(上海)有限公司 (中国 上海市)
2006年6月設立 連結 出資比率: 100%

KIKUSUI AMERICA, INC. (米国カリフォルニア州トランス市)
2004年10月設立 連結 出資比率: 100%

Kikusui Electronics Europe GmbH (ドイツデュッセルドルフ市)
2023年7月設立 ※菊水電子工業株式会社 子会社

KIKUSUI ELECTRONICS INDIA PRIVATE LIMITED (インドベンガルール市)
2025年7月設立 ※菊水電子工業株式会社 子会社

フジテック株式会社 (山梨県南都留郡富士河口湖町)
1986年6月設立 ※菊水エムズ株式会社 子会社

1951 昭和26年
株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区馬込にて
資本金30万円、役員4名、従業員6名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証
(当時の写真、31歳)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正剛 (相談役)、小林 証 (創業者)、尾崎栄造 (副社長)
高辺正武 (取締役)、一柳敏郎、広島 隆ら

1957 昭和32年
ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ
計測器がダイヤルの売上を上回る
OEMのトランススタジオも生産

低周波ディケード発振器
ORC-39A
当社のディケード方式
は有名な特許品であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-804
OEM供給していた
トランススタジオ

1961-62 昭和36~37年
菊水電子工業株式会社
へ社名を変更
専ら電子計測器の生産
に専念する

ダイオードコンバータ DC7A
全周波整流器、リアクタールミュー
ンコンバータ、インピーダンス変換器、
電圧変換器、電圧調整器等が開発された。

高圧電圧計 PV-107
電圧計のデジタル化に
初めて1000Vを標準とし
DC/AC変換

1966-68 昭和41~43年
第一次買達の年
計測器の買付けが急増し、1967年10月
30万台(計測器、計測器、計測器)の
買付けが実現した。買付けの急増は、
買付けの急増による。

1971-74 昭和46~49年
創立20周年
第一次買達の年
名古屋、東京に支店開設
電子計算機の導入

1981-82 昭和56~57年
米空軍との大型商談
オシロ7160台(23億円)
オシロの輸出として世界最大の取引に
成功(米空軍向け)

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
28日
米軍の技術力で
米空軍向けに
オシロ7160台(23億円)
オシロの輸出として世界最大の取引に
成功(米空軍向け)

1985-88 昭和60~63年
オシロスコープCOM3000シリーズ
フラットデザイン産業機械部門
と提携し、オシロスコープ
オシロスコープ
COM3000シリーズ
オシロスコープ COM7000シリーズ
高機能のオシロスコープも
とんぼ文が人気になった

計測器業界初の快報!
フラットデザイン産業機械部門
と提携し、オシロスコープ
オシロスコープ
COM3000シリーズ
オシロスコープ COM7000シリーズ
高機能のオシロスコープも
とんぼ文が人気になった

1989-91 平成元~3年
株式店頭公開
西東京営業所 開設
専属物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公募による新株発行数:75万株
発行価額:2,330円/1株

1989年6月
立川市に
西東京営業所
開設

株式公開の頃の日本社(川崎市中原区)
平成3年3月期 売上高112億、従業員数388名であった

2000-01 平成12~13年
ISO14001 認証取得
IT(パル)部門による業種得意の中
国立の企業である「ISO9001」
4製品が2001年グッドデザイン賞を受賞

2001年発売の4製品がグッドデザイン賞を受賞!

GOOD DESIGN AWARD 2001

大規模電子計測器
PAMシリーズ

高精度計測器
TOS8000

高精度計測器
TOS8000シリーズ

高精度計測器
TOS8000シリーズ

1995 平成7年
ISO9001 認証取得
当社公式ホームページ開設
全国営業拠点をオンライン化

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001 認証を取得
登録証番号:QA11100

ホームページ開設
品質マネジメントシステム
ISO9001 認証を取得
登録証番号:QA11100

高精度計測器
PAMシリーズ 開発

2002 平成14年
上海に駐在員事務所開設
中国でのサポート体制拡充へ
購買EDI(電子発注)システム
「GKp」稼働開始

世界の工場として発展する中国!
日系企業の拠出工場が増え、
当社としても取組サポート体制の
拡充が必要となった。

購買EDI稼働開始!
(購買部門別発注の電子化)

パケットシステム
PP2000システム 開発

駐在員事務所開設
中国でのサポート体制
拡充(取組)

上海のサービス拠点(2006年開設)

2005 平成17年

燃料電池用制御技術に関する技術協力を中国科学アカデミー化学物理研究所(DICP)と締結
HV/EV用制御技術について、パルスタック工業との協業を開始

燃料電池用制御技術の確立を目指して中国科学アカデミー化学物理研究所(DICP)と締結
HV/EV用制御技術について、パルスタック工業との協業を開始



2006 平成18年

創立55周年記念式典開催
中華人民共和国・上海市に菊水興業(上海)有限公司を設立
PSE法<電気用品安全法>運動

創立55周年を記念して祝賀会・洋上パーティを開催



2009 平成21年

旧テクシオ社よりエアロフレックス社製アビオニクス製品の日本販売代理店権を継承
中国拠点の合理化

エアロフレックス社製アビオニクス製品の日本販売代理店権を継承



2012 平成24年

EV自動車レース協賛 (JEVRA、バイクスEVチャレンジ) 北関東営業所移転

電気自動車によるカーレースをスポンサード



2013 平成25年

電力中央研究所様 PCS (i-Powerアシスタント) 最新試験設備 大容量交流電源PCRB1000LEを導入
Amazon販売開始

大容量シリーズを強化!



2016-18 平成28~30年

ソリューション製品サイト KIKUSUI mag を開設
販促学術マガジン(AVICA2)公開
本社を都立テクノパーク(センター南)に移転
技術センターを「菊水研究所センター」に改称



2011 平成23年

コーポレートサイトのデザイン(日本語ページ)を全面リニューアル

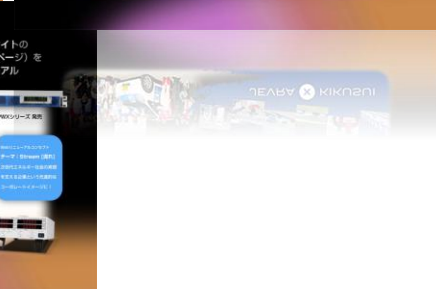
ネットショップ PFA2000シリーズ



2011 平成23年

コーポレートサイトのデザイン(日本語ページ)を全面リニューアル

電気ワイヤレスシステム電源PXTシリーズ発売



2014-15 平成26~27年

市流電源PMX-Aシリーズ
マスクोटキャラクター Pobby
菊水興業(上海)有限公司を移転

AC/DC電源試験機 TOS8000 発売



2014-15 平成26~27年

市流電源PMX-Aシリーズ
マスクोटキャラクター Pobby
菊水興業(上海)有限公司を移転

PC電源制御機TOS7100 発売



2016-18 平成28~30年

ソリューション製品サイト KIKUSUI mag を開設
販促学術マガジン(AVICA2)公開
本社を都立テクノパーク(センター南)に移転
技術センターを「菊水研究所センター」に改称

多相交流電源 PLS2000シリーズ 発売



2016-18 平成28~30年

ソリューション製品サイト KIKUSUI mag を開設
販促学術マガジン(AVICA2)公開
本社を都立テクノパーク(センター南)に移転
技術センターを「菊水研究所センター」に改称

大容量交流電源 PLS2000シリーズ 発売



2019-21 令和1~3年

電気安全規格試験マルチアナライザ TOS8300シリーズ
本拠地移転テクノパーク(センター南) 菊水興業 オートメスレーカー 600Pシリーズ

高容量電源 PLS2000シリーズ 発売



2022-24 令和4~6年

会社分割による持株会社体制へ移行
監査等委員会設置会社へ移行
双方向大容量交流電源 (PXBシリーズ)
大容量ワイドレンジ直流電源 (PXTシリーズ)
大容量再生電子負荷装置 (PXZシリーズ)

KIKUSUI HOLDINGS 菊水ホールディングス株式会社

KIKUSUI 菊水電子工業株式会社

KIKUSUI EMZ 菊水エムズ株式会社



< 新製品 >

< イベント >

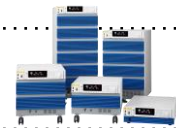
・ PLZ-5Wシリーズ (電子負荷)



・ PWR-01シリーズ (直流電源)



・ PCR-WE/WE2シリーズ (交流電源)



・ TOS9300シリーズ (電気安全規格試験マルチアナライザ)



・ PAN-Eシリーズ (直流電源)



・ PCR-WEA/WEA2シリーズ (交流電源)

・ PCJシリーズ (交流電源)

・ TOS9300 ラインアップ追加



・ PCR-WEA/WEA2 シリーズ (交流電源) フロントパネル変更

・ ハイレートバッテリーテスタ PFX2731S



・ 双方向大容量直流電源 PXBシリーズ

・ 大容量ワイドレンジ直流電源 PXTシリーズ



・ 大容量回生電子負荷装置PXZシリーズ

・ EV充電 / 放電多目的コントローラ KEV1000 シリーズ



・ 大容量スマート交流・直流安定化電源 PCR-WEA2シリーズ
「定電流出力 / 回生電子負荷機能オプション」



2016

- ・ 富士勝山事業所にデモルーム開設
- ・ Webサイト「KIKUSUI mag」開設

2017

- ・ 本社を横浜市都筑区茅ヶ崎中央へ移転

2018

- ・ 菊水創発センター リノベーション工事完了
- ・ KIKUSUI AMERICA, INC. トーランス市に移転

2019

- ・ 譲渡制限付株式報酬制度を導入
- ・ ドイツ デュッセルドルフに駐在員事務所を開設

2020

2021

- ・ 菊水貿易 (上海) 有限公司 北京分公司を開設
- ・ 創立70周年記念 昭和レトロ計測器Bluetoothウーススピーカー 3機種発売

2022

- ・ 会社分割による持株会社体制へ移行
- ・ 菊水電子工業株式会社及び菊水エムズ株式会社 2社を承継会社とする吸収分割
- ・ 菊水貿易 (上海) 有限公司 広州分公司を開設

2023

- ・ 監査等委員会設置会社へ移行
- ・ Kikusui Electronics Europe GmbHを設立

2024

2025

- ・ KIKUSUI ELECTRONICS INDIA PRIVATE LIMITEDを設立

当社グループの独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)

[顧客]

メーカー

(電機・電子機器、電子部品、自動車)

公的研究所・機関
教育機関 (大学等)

工業試験所
(テストラボ)

公的機関
(防衛、警察等)

グローバルに販売展開

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、**自動車のノイズ耐性 (EMC)** に関する試験、また**EV用バッテリーの絶縁性能試験**の測定需要が高まっています。

EV充電/放電多目的コントローラ 耐電圧試験器

EMC試験器



電源機器

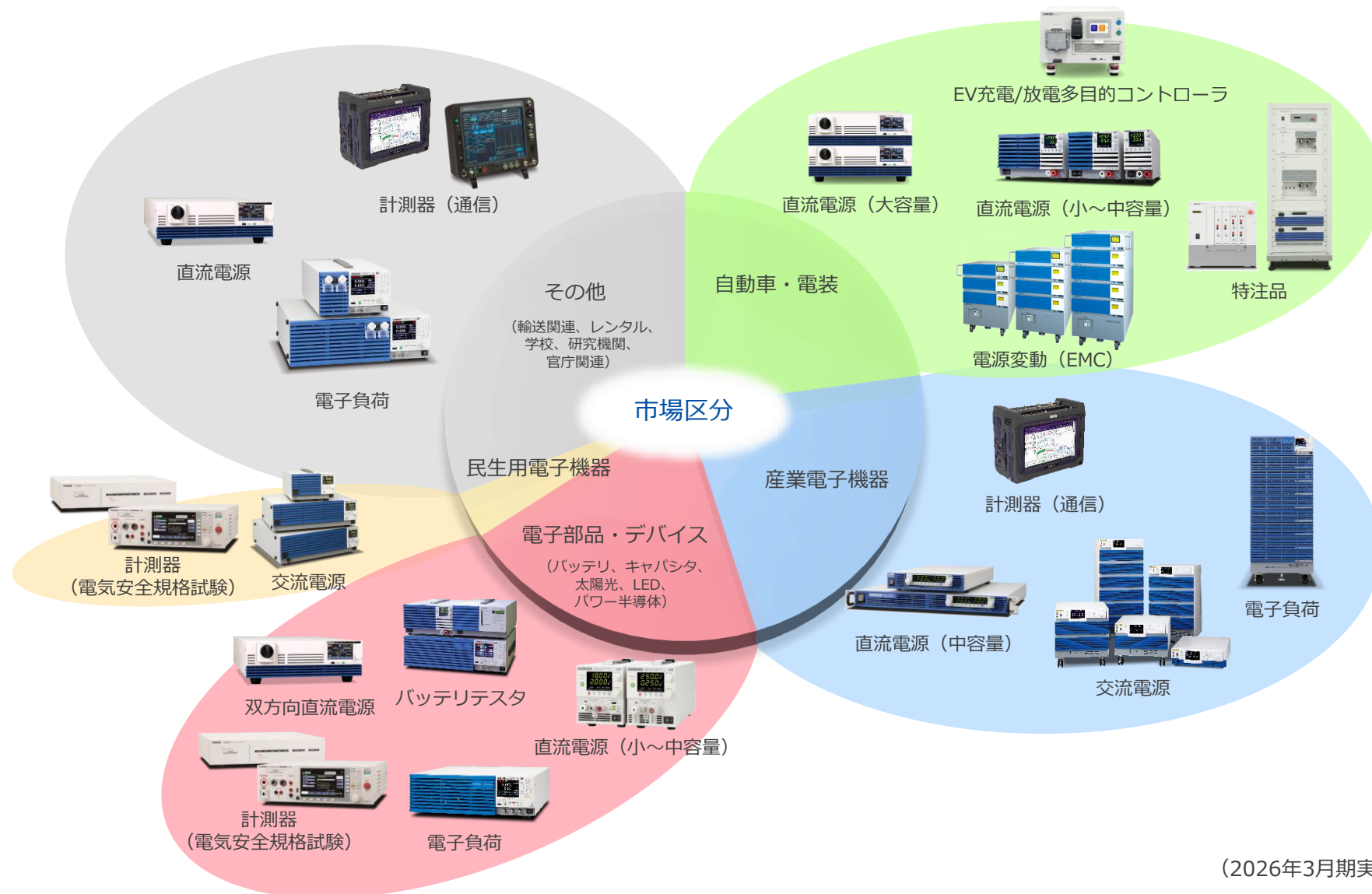
研究開発や製造工場などで、安定した電力 (直流・交流) を供給する設備として使用されます。近年は、「**eモビリティ**」「**次世代エネルギー**」「**パワー半導体**」「**データセンター**」市場を中心とした**パワーエレクトロニクス分野**での評価試験や製造設備用として**直流電源**、**交流電源**、**電子負荷**装置 (電力を消費する装置) の需要が高まっています。

直流電源

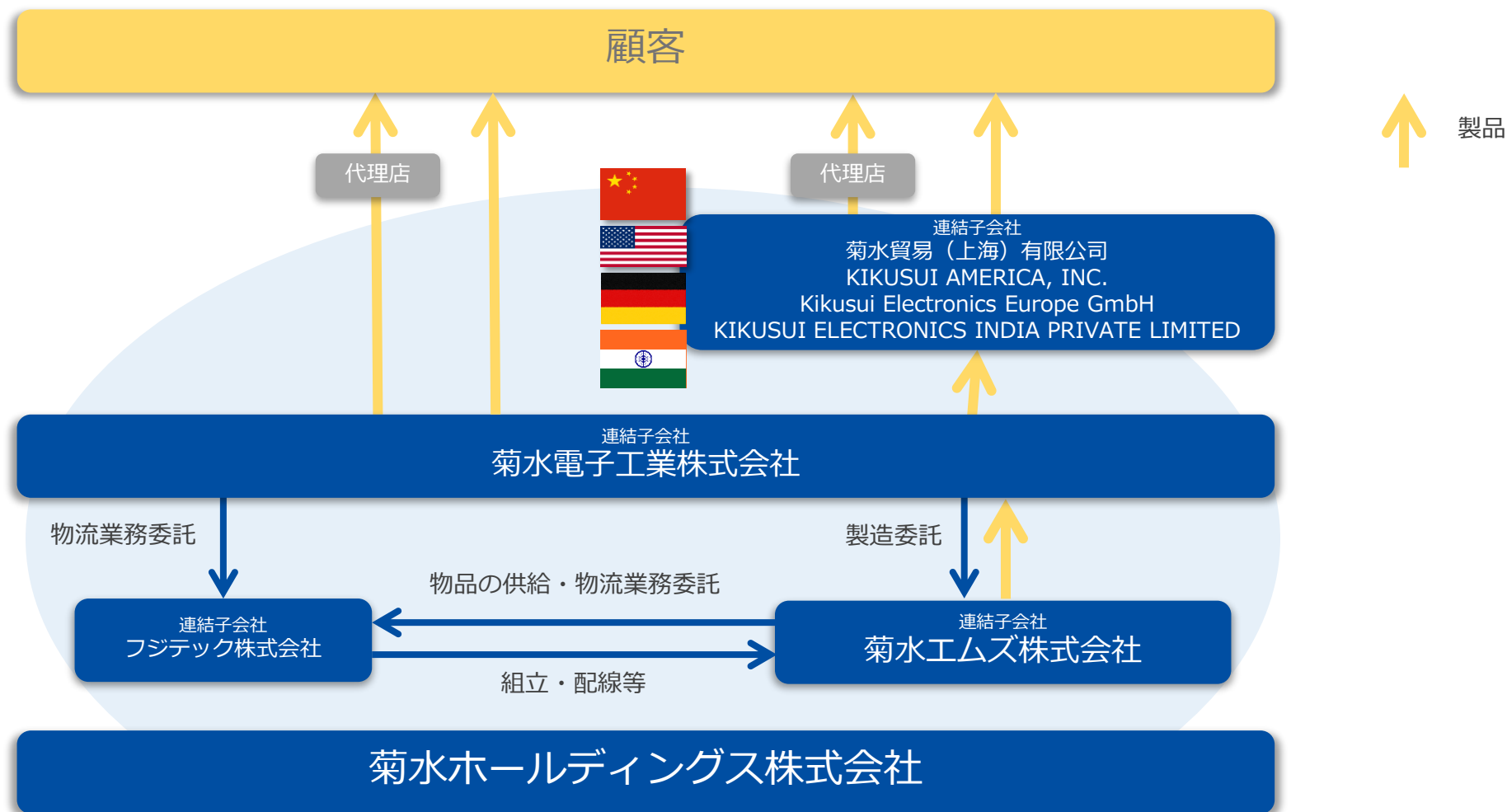
交流電源

電子負荷





(2026年3月期実績による)



社是

(創業の精神)

菊の如く清楚であって国を愛し会社を愛し
水の如くいつこにもどこまでも浸透せよ



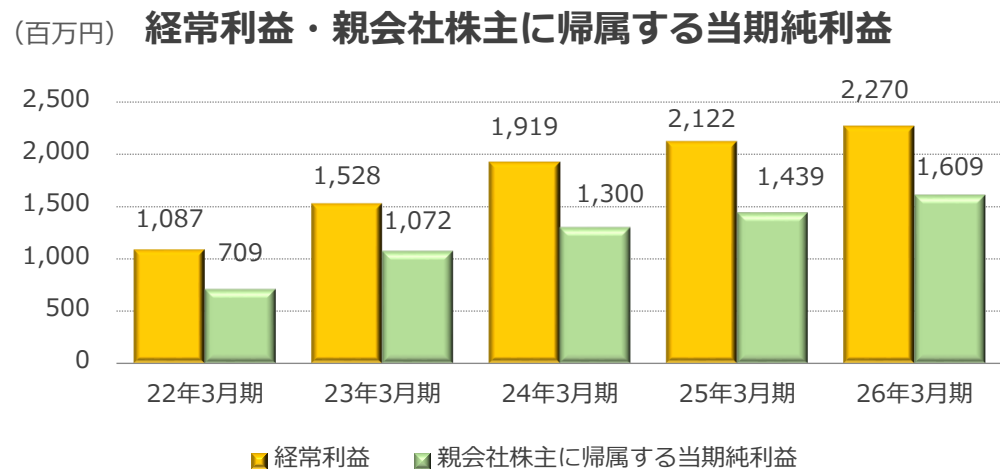
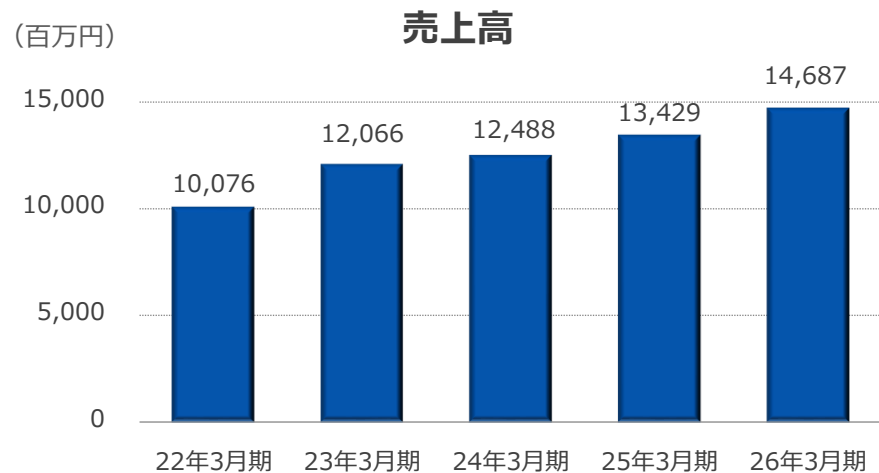
ビジョン

私たち菊水は
自由で豊かな発想と行動力で“創発”し
社会と共に進化します

自由な発想と行動力で、社会と共に進化する



2026年3月期 連結業績概要



経営の概況

当社グループの属する電気計測器業界におきましては、世界各国で進められているカーボンニュートラルやSDGs達成に向けた取り組みを背景に、自動車関連市場や電池関連市場における需要が見られました。また、AI（人工知能）の需要拡大に伴い、半導体関連市場やデータセンター関連市場においても、中長期的には設備投資の拡大が期待される状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは「パワーエレクトロニクス分野の評価及び測定ソリューション」をテーマに、eモビリティ、次世代エネルギー、パワー半導体、データセンターの4市場を重点市場として位置付け、国内外の顧客ニーズに即したソリューションビジネスを積極的に展開してまいりました。具体的には、展示会への出展やWebマーケティングを通じてソリューションを提案し、売上拡大に努める一方、原価低減にも継続的に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、車載関連市場、エネルギー関連市場、半導体関連市場及びデータセンター関連市場等における設備投資需要を取り込んだことにより、146億8千7百万円（前年同期比9.4%増）となりました。

損益面におきましては、海外製品の仕入コストの増加、ベースアップ等による人件費の増加及び研究開発費の増加などがあったものの、売上高の増加が寄与し、営業利益は21億3千5百万円（前年同期比6.9%増）、経常利益は22億7千万円（前年同期比7.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は16億9百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

	25年3月期		26年3月期		前年同期比	
	金額 (百万円)	対売上比率 (%)	金額 (百万円)	対売上比率 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	13,429	100.0	14,687	100.0	1,258	9.4
売上原価	6,469	48.2	7,214	49.1	744	11.5
売上総利益	6,960	51.8	7,473	50.9	513	7.4
販売費及び一般管理費	4,962	37.0	5,338	36.4	376	7.6
営業利益	1,997	14.9	2,135	14.5	137	6.9
営業外収益	145	1.1	174	1.2	28	19.9
営業外費用	20	0.2	38	0.3	18	89.5
経常利益	2,122	15.8	2,270	15.5	148	7.0
税金等調整前当期純利益	2,122	15.8	2,270	15.5	148	7.0
法人税等	682	5.1	661	4.5	△20	△3.1
親会社株主に帰属する当期純利益	1,439	10.7	1,609	11.0	169	11.8
1株当たり当期純利益	173.41円		193.38円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

売上高：14,687百万円

【前年同期 13,429百万円】 **+9.4%**

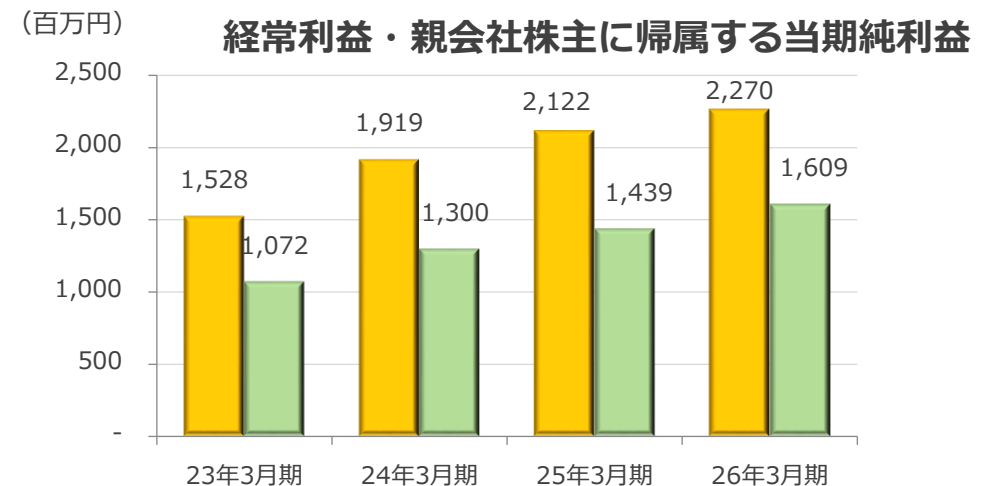
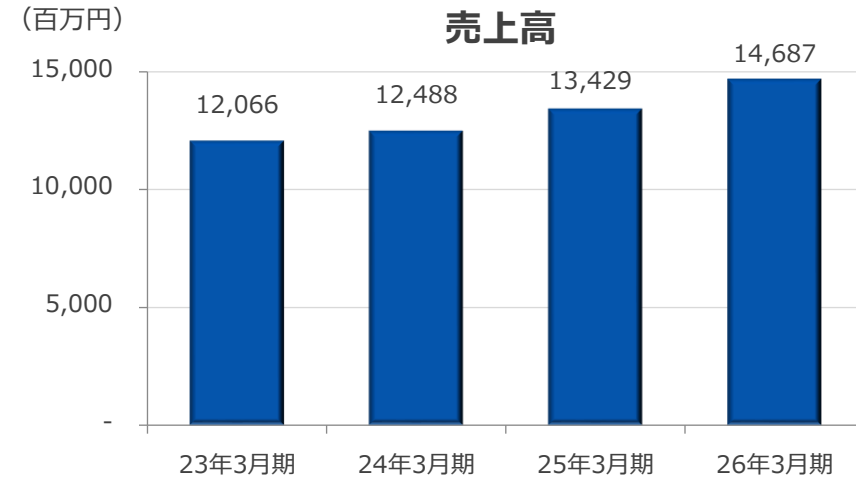
経常利益：2,270百万円

【前年同期 2,122百万円】 **+7.0%**

親会社株主に帰属する
当期純利益：1,609百万円

【前年同期 1,439百万円】 **+11.8%**

「パワーエレクトロニクス分野の評価及び測定ソリューション」をテーマに、eモビリティ、次世代エネルギー、パワー半導体、データセンターの4市場を重点市場として位置付け、国内外の顧客ニーズに即したソリューションビジネスを積極的に展開してまいりました。具体的には、展示会への出展やWebマーケティングを通じてソリューションを提案し、売上拡大に努める一方、原価低減にも継続的に取り組んでまいりました。この結果、当連結会計年度の売上高は、車載関連市場、エネルギー関連市場、半導体関連市場及びデータセンター関連市場等における設備投資需要を取り込んだことにより、146億8千7百万円（前年同期比9.4%増）となりました。損益面におきましては、海外製品の仕入コストの増加、ベースアップ等による人件費の増加及び研究開発費の増加などがあったものの、売上高の増加が寄与し、営業利益は21億3千5百万円（前年同期比6.9%増）、経常利益は22億7千万円（前年同期比7.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は16億9百万円（前年同期比11.8%増）となりました。



電子計測器：3,369百万円

【前年同期 3,231百万円】 **+4.3%**

電源機器：10,762百万円

【前年同期 9,640 百万円】 **+11.6%**

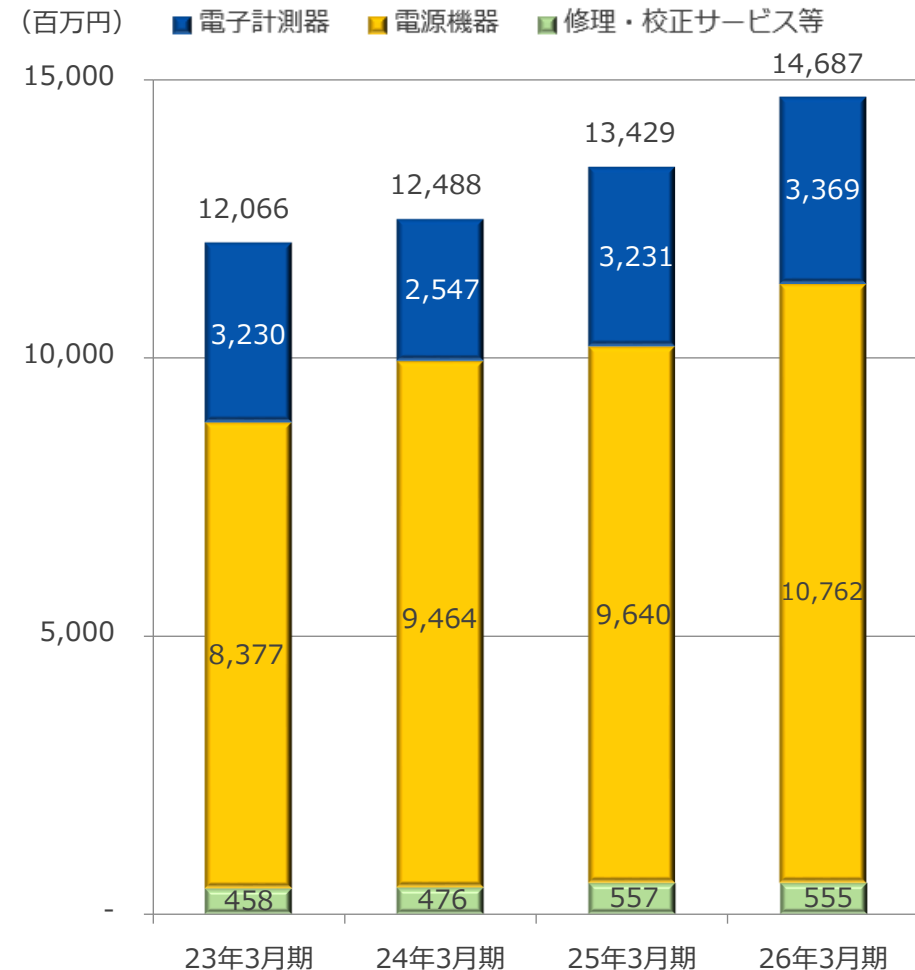
修理・校正サービス等：555百万円

【前年同期 557百万円】 **△0.3%**

電子計測器群では、安全関連試験機器は、EV(電気自動車)用バッテリーの耐電圧・絶縁抵抗試験用として電池関連市場向けに好調に推移いたしました。航空用電子機器の測定器は、航空・防衛関連市場向けに好調に推移いたしました。以上の結果、売上高は33億6千9百万円(前年同期比4.3%増)となりました。

電源機器群では、直流電源は、宇宙産業市場、車載関連市場、エネルギー関連市場、半導体関連市場及び電子部品市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。交流電源は、車載関連市場、エネルギー関連市場及びデータセンター関連市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場、半導体関連市場及びデータセンター関連市場への評価試験用として動きが見られました。以上の結果、売上高は107億6千2百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

修理・校正サービス等につきましては、特記すべき事項はありません。修理・校正サービス等の売上高は、5億5千5百万円(前年同期比0.3%減)となりました。



製品群別売上高構成比

電子計測器：22.9%

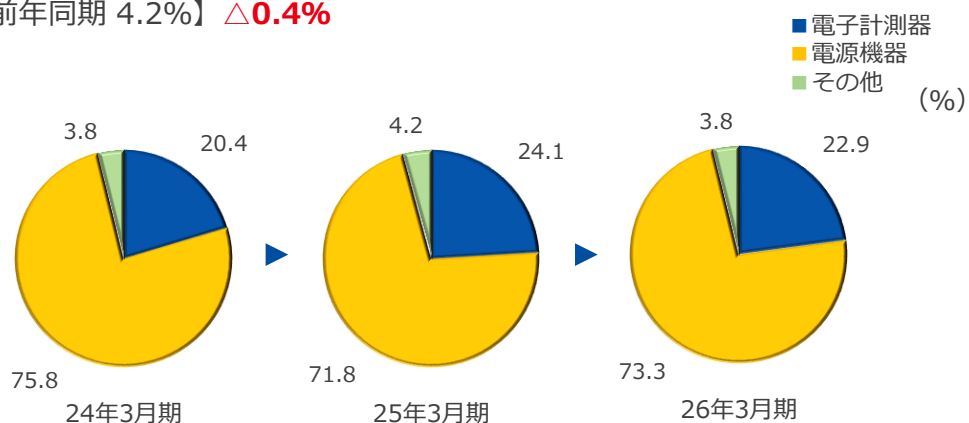
【前年同期 24.1%】 Δ 1.2%

電源機器：73.3%

【前年同期 71.8%】 +1.5%

修理・校正サービス等：3.8%

【前年同期 4.2%】 Δ 0.4%



電子計測器群の売上高は33億6千9百万円(前年同期比4.3%増)、電源機器群の売上高は107億6千2百万円(前年同期比11.6%増)となり、電源機器群の構成比率が増加しました。

製品群別売上総利益率

電子計測器：43.6%

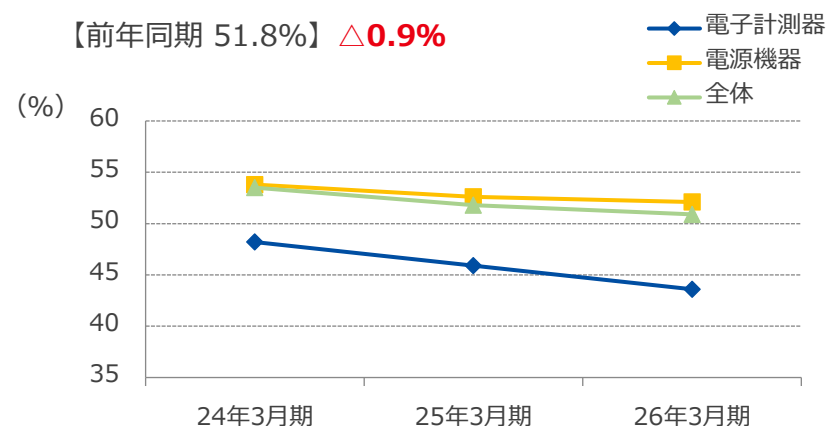
【前年同期 45.9%】 Δ 2.3%

電源機器：52.1%

【前年同期 52.6%】 Δ 0.5%

売上総利益率：50.9%

【前年同期 51.8%】 Δ 0.9%



売上拡大に努める一方、原価低減にも継続的に取り組んでまいりましたが、売上総利益率は減少いたしました。

北米：1,368百万円

【前年同期 946百万円】 **+44.6%**

欧州：419百万円

【前年同期 527百万円】 **△20.4%**

中国：1,901百万円

【前年同期 1,797百万円】 **+5.8%**

その他アジア：1,413百万円

【前年同期 1,269百万円】 **+11.3%**

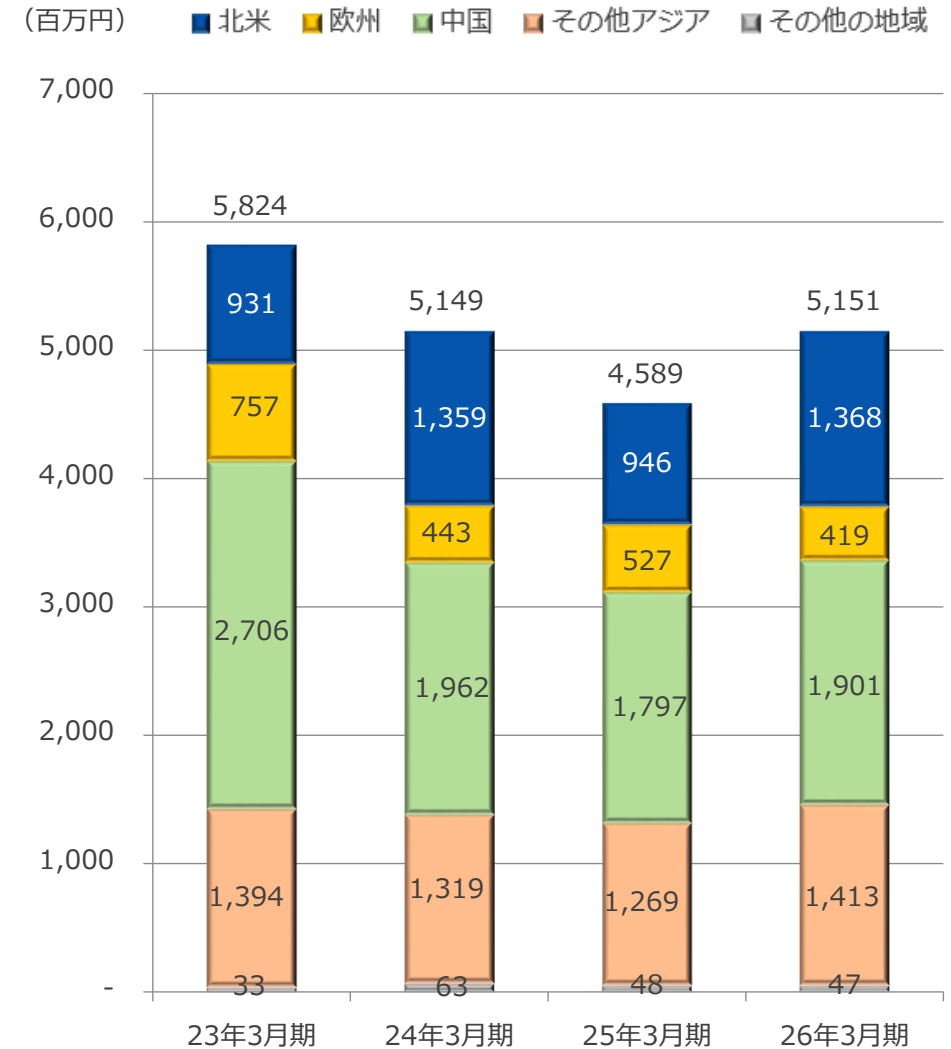
その他の地域：47百万円

【前年同期 48百万円】 **△1.3%**

海外販売高合計：5,151百万円

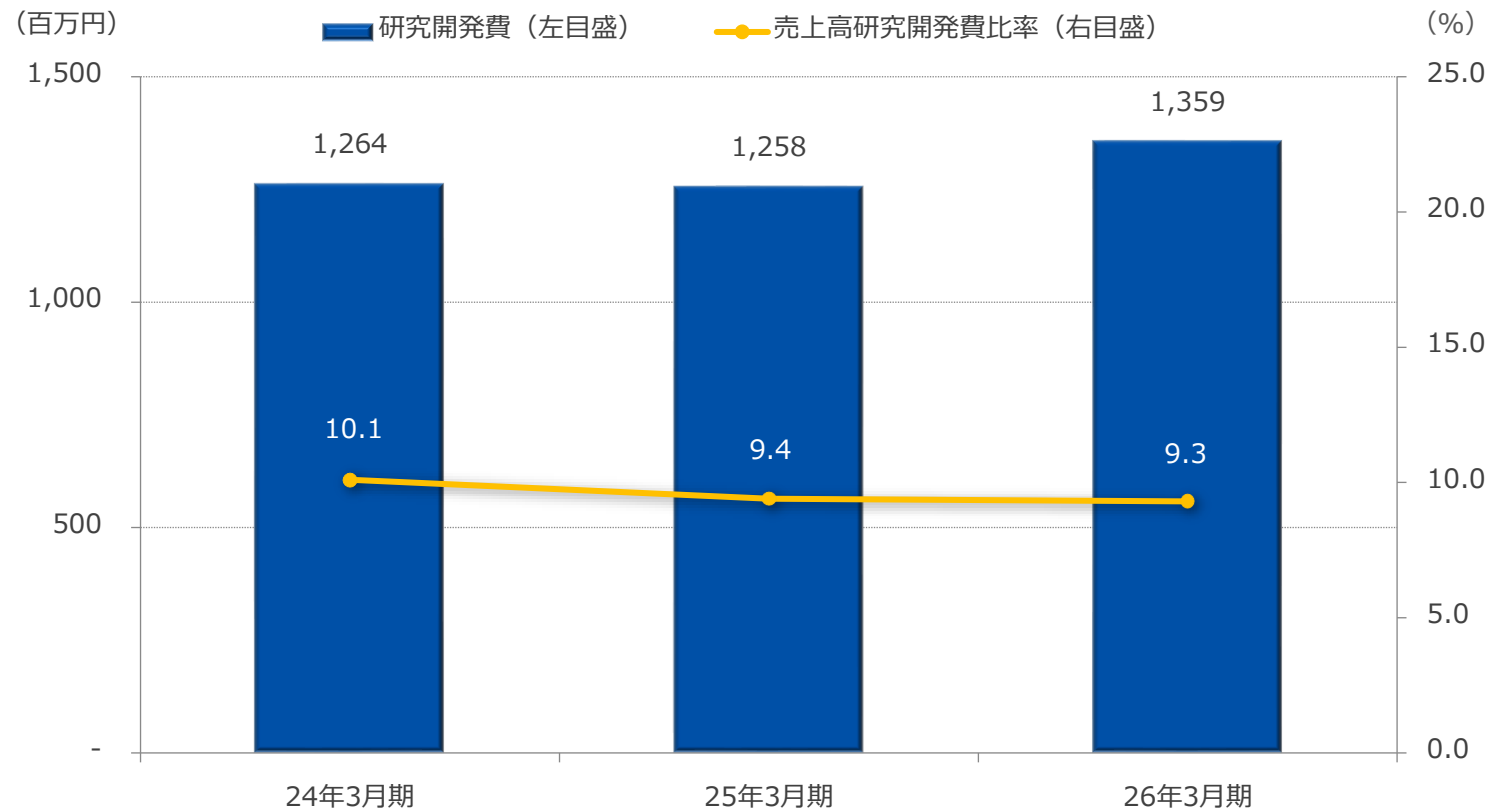
【前年同期 4,589百万円】 **+12.2%**

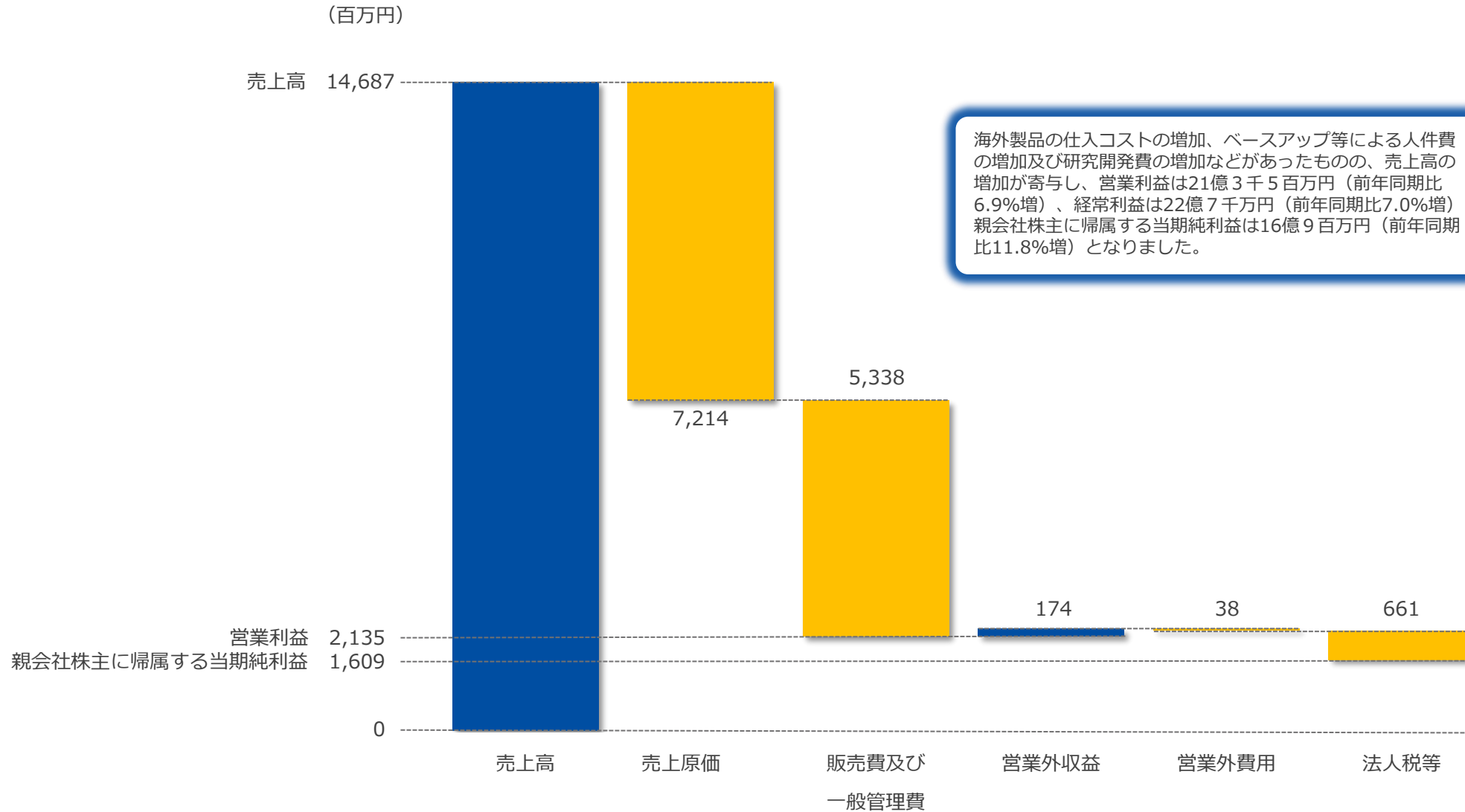
米国では、宇宙産業市場及びデータセンター関連市場への直流電源並びにエネルギー関連市場への交流電源が好調に推移いたしました。
 欧州では、航空宇宙関連市場への交流電源に動きがありましたが、全体的には低調に推移いたしました。
 アジアにおいては、中国では、自動車関連市場の設備投資抑制の影響はあったものの、電池関連市場への安全関連試験器が好調に推移したことにより、前年同期を上回りました。また、韓国では、車載関連市場への直流電源に動きが見られ、東南アジアでは、データセンター関連市場への交流電源に動きが見られました。インドでは、EV関連市場及びデータセンター関連市場への交流電源が好調に推移いたしました。
 以上の結果、海外売上高は51億5千1百万円(前年同期比12.2%増)となりました。



1,359百万円 (9.3%)

【前年同期 1,258百万円 (9.4%)】





(百万円)

【資産の部】	25年3月期	26年3月期	増減
流動資産合計	11,589	12,233	644
固定資産合計	5,861	6,884	1,022
資産合計	17,450	19,117	1,667
【負債の部】	25年3月期	26年3月期	増減
流動負債合計	2,531	2,407	△124
固定負債合計	855	1,016	160
負債合計	3,387	3,424	36
【純資産の部】	25年3月期	26年3月期	増減
資本金	2,201	2,201	-
資本・利益剰余金	11,435	12,015	579
自己株式	△877	△260	617
その他の包括利益累計額合計	1,302	1,737	434
純資産合計	14,062	15,693	1,631

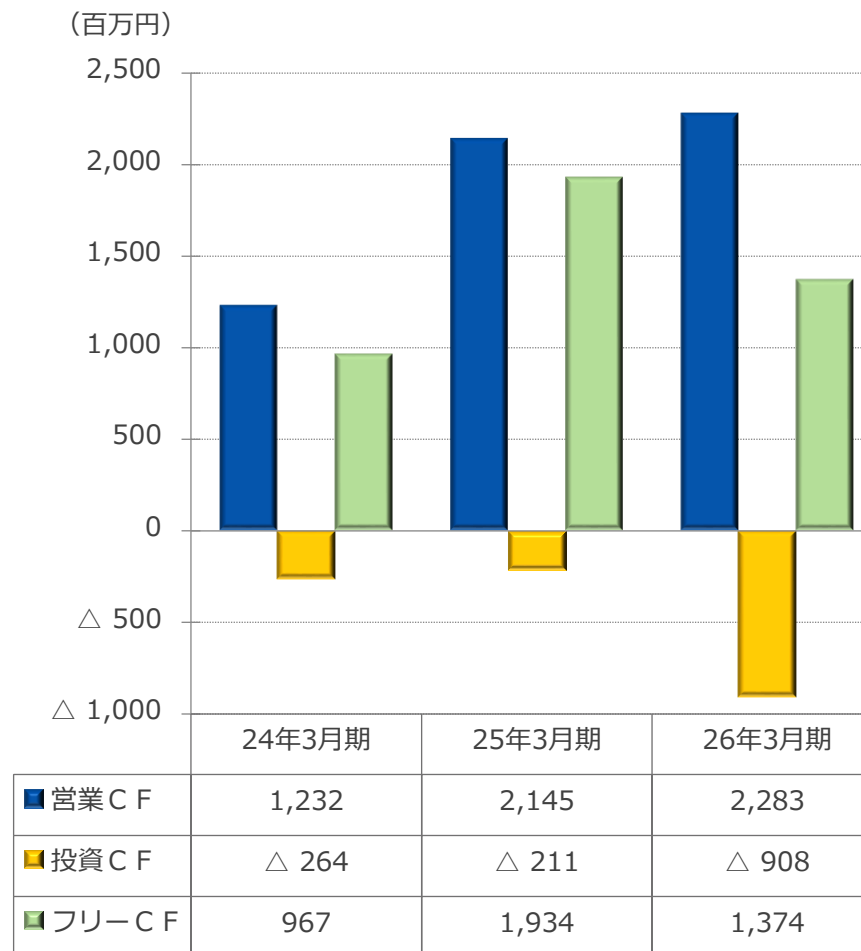
【 CF計算書 】	(百万円)	24年3月期	25年3月期	26年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,232	2,145	2,283
投資活動によるキャッシュ・フロー		△264	△211	△908
財務活動によるキャッシュ・フロー		△461	△391	△445
現金及び現金同等物の増減額		538	1,522	1,028
現金及び現金同等物の期首残高		2,646	3,184	4,707
現金及び現金同等物の期末残高		3,184	4,707	5,736

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上及び棚卸資産の減少等による資金の増加が、法人税等の支払額等による資金の減少を上回り、22億8千3百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得等により、9億8百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、4億4千5百万円の支出となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ10億2千8百万円増加し、57億3千6百万円となりました。



2027年3月期 連結業績予想

	26年3月期	27年3月期	前年同期比	
	通期実績 (百万円)	通期予想 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	14,687	14,700	12	0.1
営業利益	2,135	2,150	14	0.7
経常利益	2,270	2,300	29	1.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,609	1,620	10	0.7

	26年3月期	27年3月期	前年同期比
	通期実績 (円)	通期予想 (円)	増減額 (円)
1株当たり 配当金	69.00	59.00	△10.00

26年3月期の期末配当金につきましては、普通配当に加え1株につき10円の記念配当を実施しております。

【 注意事項 】

本資料は、2026年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2026年5月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

【本資料および当社IRに関するお問い合わせ先】

菊水ホールディングス株式会社 総務部 IR担当

電話：045-482-6912 (代)

E-mail：ir@kikusui.co.jp

URL：https://kikusui-holdings.co.jp/



KIKUSUI HOLDINGS
菊水ホールディングス株式会社